

震災支援速報

オフィシャルサイト=<http://www.kagoshima.coop/rinji/touhoku-jishin.html>

2011年4月20日 発行
第10号 生協コープかごしま
震災対策本部:事務局
TEL 099(286)1111

被災地に「生協あり」を実感しました

～第一陣・吉富団長から支援活動の報告～ 機関紙「まいこーぷ」5月号に掲載しています。

◆3月11日に発生した「東日本大震災」では大きな被害が発生。日本生協連ではすぐに対策本部を設置し被災地への支援活動を開始しました。生協コープかごしまでも支援物資を送るとともに、20日(日)から三陣にわたって職員を送り支援活動を行ないました。今回、第一陣の団長として宮城で支援活動に取り組んだ吉富職員が支援について報告します。

第一陣の目的は「災害救援物資」を確実に届ける事。現地の共同購入職員と組合員の安否確認活動。そして往復の道路状況や現地情報を収集し第二陣へ引継ぐことでした。

支援物資としては、日本生協連からの指定物資として「さば缶詰」「マスク」。それと鹿屋農業高校から託された「青春100%紅茶」。セイカ食品さんから託された「ボンタンアメ」他の菓子類を運びました。

現地についた自分たちは、みやぎ生協の「東支部」での支援が割り振られました。

うちは我慢できるから お年寄りのいるところから...

到着した初日は、現地の共同購入の職員と一緒に、組合員の安否確認と救援物資の配達。救援物資は鹿児島から持参した青春100%、ボンタンアメ、さば缶詰のほかにコープかりんとう、ロングライフパン、ゼリー、魚肉ソーセージ等です。鹿屋農高さんからの「青春100%」やセイカ食品さんの鹿児島銘菓のボンタンアメ等は、被災地域の組合員さんに大変喜ばれました。

二日目は灯油配達を行いました。燃料が不足しており「1世帯10リットル制限」の説明に、組合員さんからは「生死のさまよいに比べれば寒さは我慢できる」「うちは我慢できるから高齢者を優先して下さい」との「相互扶助・たすけあい」の言葉が聞かれました。



第一陣のメンバー(左端が吉富団長)

組合員と再会し手を取り合い喜び涙する

津波に遭われ組合員さんの安否確認活動は、災害から10日を過ぎても被災地の人影はまばらでした。生協の担当者が組合員のお宅を一軒一軒訪問し「ここはおじいちゃんがいけど大丈夫だったのだろうか」とか「ここは職場班(老人ホーム・幼稚園)で未だ安否がつかめていない」と心配していました。

また訪問途中で、避難先から戻り呆然としている組合員さんや、瓦礫となった家財道具を家の外に搬出している方と会うと、組合員と職員が手と手を握り合って喜び、涙する場面もありました。組合員さんとの会話の中で「〇〇さんはどうなった?」とか「〇〇さんの安否が未だ分からないけど心配だ」と「人と人のつながり、思いやり、気遣う心」も多数見られました。

石巻地区で担当者が、津波に押し流されようとしていたお年寄り二人を両脇に抱え込み「私たちはいいから逃げなさい」というそのお二人の言葉に「気を強くもってと激励しながら助けて下さった」と感謝の手紙が届きました。本人は当然のことと報告しておらず、この手紙で明らかになり、朝礼で報告がされ支部の職員から拍手を受けていましたね。

生協だからこそその助け合い・支えあい

今回の災害支援活動に参加して「被災地に生協あり」を実感しましたね。

この未曾有の災害の復興に向けて「官」と「民」が一体となった救援活動が求められていますが、ライフラインが復旧していないなかで、避難せずに自宅で生活されている住民(組合員)には救援物資が届けられていない現状がありました。

そんな中で高い組織率で顔が分かっている生協が、個別訪問し地域の住民(組合員)に救援物資をお届けしている活動は、行政のカバーをしていると感じました。

地域と組合員と職員がお互いに「励ましあい、助け合い、支えあい」ことを大切にしている生協だからこそ、今回の災害救援活動でも生協の素晴らしさを発揮していると実感しました。

そしてさらに日本全国から47の生協が被災地に集結し、組合員訪問や店舗の復旧、そして共同購入の再開と支援活動を行っていました。「生協の連帯感」や「絆」の強さを改めて実感した支援活動でした。

募金の一次分(3月分)を4月末までに送金

◆4月末日までの分は、4月分の募金額が確定後に全額を日本生協連へ送金予定です。

共済契約者訪問活動に職員を4人派遣します

◆コープ共済の契約者宅・避難所を訪問し、お見舞い活動とお知らせ・申請手続きを行うために来週から職員を派遣します。